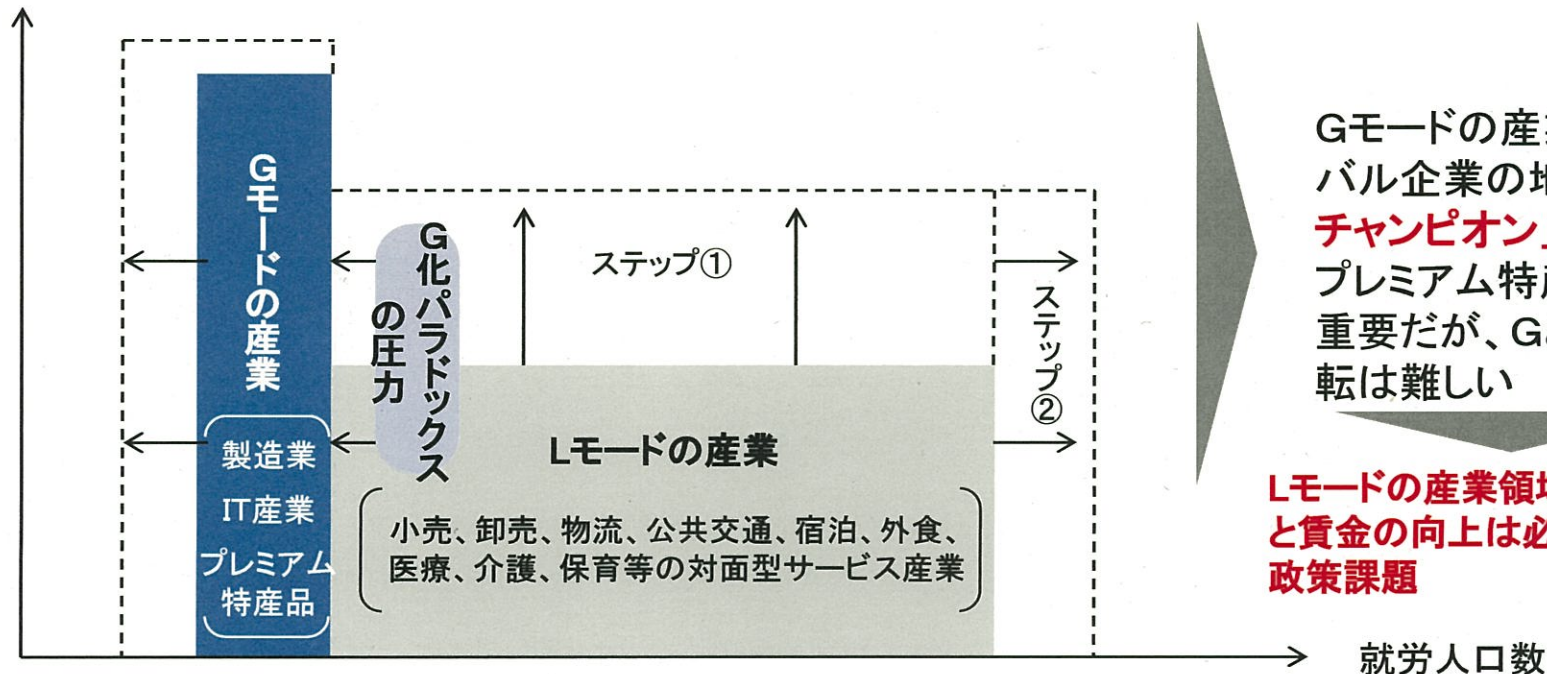


## 地方経済に無いものは何か？

- ◆ 地方に「しごと」が無いわけではない(Lの経済圏は生産労働人口の先行減少で恒常的な人手不足時代へ)
- ◆ 無いのは「相応の賃金」「安定した雇用形態」と「やりがいやプライド」を持って働ける「しごと」(だから若者の流出が続く)
- ◆ 需要(量的な意味での「しごと」)を作っても、労働生産性(=  $\frac{\text{付加価値生産額}}{\text{投入労働時間}} \simeq \text{賃金}$ )が持続的に上昇しなければ問題は解決しない。

労働生産性(≒賃金)



Gモードの産業拡大策(グローバル企業の地方誘致、「隠れたチャンピオン」GNT企業育成、プレミアム特産品の育成等)は重要だが、GとLの比率の大逆転は難しい

**Lモードの産業領域の労働生産性と賃金の向上は必須かつ最大の政策課題**

# Lモードの地域密着・対面型サービス産業の生産性向上で世帯所得の倍増を！



1. 先進国中、最低レベルの労働生産性の原因の直視
  - ・ 経営レベルの低さとばらつき大きさ
  - ・ 域内における過当競争問題
  - ・ 消費密度の低下(密度の経済性⇒「まち」のコンパクトシティー化の重要性)
  - ・ リスクマネーの不足？(YesでありNoでもある)
  - ・ 企業やイノベーションを妨げる規制の存在？(YesでもありNoでもある)
2. 地域企業の経営を担う「ひと」のレベルを高める施策群の展開
  - ・ 大都市に偏っている経営人材を地域企業へ還流・循環する施策(Ex.官民「人材」ファンドモデル)
  - ・ 域内の優秀な経営者のもとへスムーズに事業と雇用の集約化を促進する新陳代謝施策  
⇒ベストプラクティスを域内、地域間で横展開
3. サービス産業に従事する「ひと」のスキルレベルを高める施策群の展開
  - ・ **ジョブ型雇用領域において有効な職業訓練の展開と労働市場改革**
  - ・ **高等教育の大改革(大学もGとLに分別すべし)**
4. 地域創生関連施策を労働生産性と賃金・雇用に紐づけること  
Ex. 海外観光客の誘致をどう高賃金の安定雇用創出につなげるのか？
5. 地方自治体単位でのきめ細かい「見える化」と粘り強いPDCA管理
  - ・ KPI(生産性指標、賃金・雇用指標など)をリアルタイムで把握し施策効果の評価と見直しを継続
  - ・ 地域金融機関等とも連携して「生産性運動2.0」を展開